

受講番号 19040

学校名

佐川高等学校

氏名

篠原 真弥

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 3年Cホーム(進学コース)

生徒数 35 名

科目名 リーディング

単位数(授業時数) 4 時間

使用教科書名 VIVID Reading (第一学習社)

クラスの様子・特徴

やる気や意欲はあるが、自信のなさから全体的に物静かで、積極的な発言は少ない。与えられた課題などは大多数の生徒が地道に果たそうとする真面目なクラスである。一方学力差が大きく、理解に時間を要する生徒の対応に配慮が必要である。

問題の確定

進学クラスの中で理解に時間を要する生徒も含め全員に、進学に耐え得るだけの Reading 力増強のための方策を探りたい。

予備調査

A 授業の観察

138語の英文が10分経過後も読み終わらない生徒が若干名いる。「構文お助けシート」があると読むスピードは上がる。教師についての Shadowing はできるがCDについてはできない。Time Reading (制限時間読み)はほぼできる。

B 生徒による授業評価

「もう少しゆっくり進めてほしい。難しい構文を分かりやすく教えてほしい。もっと詳しく訳す練習をしたい。読み方を単語と一緒に書いてほしい。」「単語や派生語・語源などを書いてくれるので覚えやすい」「今のスピードのままで」等。

C 学力データ

真面目に取り組むクラスなので、1学期中間考査の平均点は予想以上に高かった。4月28日代々木模試では、英語及び Listening、更に Reading に関する全項目において、偏差値が全国平均・県平均に及ばず、今後の指導の重要性を感じた。

リサーチ・クエスト

全体的に語彙力増強の必要があるクラスで ①理解語彙を拡大し、②理解語彙を使用語彙にまで高めると共に、③真の速読速解力をつけるには、どうすればよいか。

仮説・実践・検証

仮説1

⇒

実践1

⇒

検証1

英文を読む際、意味のまとまりごとに区切り、同時通訳者のように文頭から読み進める Slash Reading を習慣付けられ、後戻りのない速読速解ができるだろう。

Slash Reading の方法
(1)導入として、【意味のまとまりで区切る上でのルール】を紹介。訓練する。(2)当初は教師の Slash reading について読むことによって、意味のまとまりのルールを確認。長文で後戻りのない速読速解の感覚をつかむ。(3)慣れるに従って、教師の Model reading や教師の後に続く Chorus reading なしに、最初から自力で速読速解。

「同時通訳的読解」の意味を理解したようで、指示されずとも Slash を入れ速読を心がけている。慣れるに従い、同時通訳者の理解の上で段落ごとに要約する「逐次通訳的手法」を取れた。読解スピードの上昇は WPM の増加や教科書進度の向上等で確認できる。代々木模試では英語の平均点が約3ヶ月間に17.8(偏差値では1.4)と著しく向上した。同時に力を入れている Listening に関しても、偏差値上は1.7の上昇である。

仮説2

⇒

実践2

⇒

検証2

構文学習の少ないリーディングの教科書を使用しており、更に新出語句以外にも十分に定着していない語句を持つ生徒が多いため、教師作成の「構文お助けシート」による読み取りで速読スピードが上がるだろう。また様々な形式を取り入れた音読練習で、構文や語の Chunk が自然に習得できるだろう。

語彙拡大の方法
(1)新出語句導入においては、接頭語、接尾語、派生語、連語等を紹介、語彙拡大も図る。Chunk を同時に紹介することにより覚えやすくする。「1日に5個以上の単語を覚えよう」と題するプリントに、単語や語句を書いて練習。毎週月曜日に提出。(2)本文中の語句や Chunk に関しては、構文の解説のみでなく、語句や語句の Chunk に下線を引いた「構文お助けシート」を配布。

語源や派生語を紹介し、語彙の拡大を図ったことは良かった。アンケートでも生徒から良い評価を得ている。「1日5個の単語」(プリント)はほぼ全員提出し、予想以上に意欲的に取り組んだ。2学期からは「1週3ページの音読筆写」(ノート)に変更したが、熱心に取り組み、3ページ以上書く生徒も多く見られた。「構文お助けシート」は生徒には好評で、多くの者が頼って真剣に取り組んだ。語句・表現テスト等で、成果の検証をすべきであった。

仮説3

⇒

実践3

⇒

検証3

「読めたつもり」ではなく、「真の速読速解力」をつけるためには、和訳先渡しは有効とは思われないが、時には和訳を先に読んだ後英文を黙読することにより、読み取るスピードを体感でき、英文が読める喜びを垣間見ることができよう。また反対に、語彙力(Chunk としての Lexis)増強学習もできよう。

流れ
①和訳を見ずに本文を黙読。WPMを計る。②和訳を読み、再度黙読。WPMを計り、感想を書く。③各自和訳と対比させて、新出語句や Chunk の意味を確認。④再度黙読。WPM計測。⑤同時通訳的手法(または和問と答形式)で、全員で語句及び内容確認。⑥音読練習(Shadow-reading, Pair-reading, Time-reading 等)

WPMは2回目・3度目と増加しているし、生徒自身「先に意味を理解していると読む速度が速くなった気がする」と感想に書いている。生徒は読み取るスピードを体感できたようだ。また本文読解前に行っていた語彙学習の時間が短縮された。しかしこれはあくまでも「読めたつもり」なので、「真の読解力」をつけるためには、この方法を積み重ね、比較のための客観的データを収集しなければならない。

研究の成果

『同時通訳的読解』が身に付き、黙読の際自ら Slash を入れながら速読を心がける生徒が多くなった。4月当初『黙読』の時間に途方にふて座っていた生徒たちが『構文お助けシート』に頼りながら真剣に取り組む姿には感動すら覚えた。読解スピード向上は、WPMの増加や授業進度の向上等で確認できる。代々木模試では英語の平均点が3ヶ月間で17.8(偏差値では1.4)と著しく向上した。同時に力を注ぐ Listening も偏差値上1.7の上昇である。「センターブリ」を受けた生徒は年間を通して点数的には着実に向上している。

今後の授業改善の課題

『同時通訳的読解』の意味は理解しても日本語の語順にあった訳文に固執する生徒が多少いる。『逐次通訳的手法』への移行が課題だ。語彙力や構文知識は長文速読に不可欠である。構文学習の少ない教科書でこれらを補う授業の構築が必要である。『和訳先渡し』は「読めたつもり」なので、真の速読速解力をつける決定打がほしい。RQ②「理解語彙を使用語彙にまで高め」に関しては表現テスト等での確認も必要であった。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0889-22-1243

電子メール